

推薦の言葉

本翻訳書の原書の著者の一人である Giles Peek 先生が、呼吸ECMOに関して世界で初めてECMOの優位性を示したRCT、いわゆるCESAR Trialを発表して14年ほどの月日が経ちます。その後多少のlimitationが議論されていますが明らかに世界のECMO診療のターニングポイントとなったと言えます。それから12年後、同様に本翻訳書の原書の著者の一人であるAlain Combes先生がEOLIA trialの結果を発表されました。crossoverという言葉や、negative-positiveなどの言葉を用いながらも、われわれECMO診療に軸足を置いている集中治療医としてはEOLIA trialの結果を好意的に解釈しております。

このような世界の潮流のなかで、わが国でもECMOの成績は進歩しています。特に呼吸ECMOに関しては2009年の新型インフルエンザのパンデミック時にわが国のECMO患者の生存率が37%と海外と比較してきわめて不良であったことを竹田晋浩先生が報告し（S Takedaら, J Aneth 2011）、成績改善目的で日本呼吸療法医学会のECMOプロジェクトを立ち上げたことが転機でした。その後、2016年のECMO患者の生存退院率は50%まで改善している（ECMOプロジェクト委員会 青景ら, 人工呼吸2017）ことを青景聡之先生が報告されています。つまり、ECMOプロジェクトの活動により、日本のECMO治療は挑戦の範疇から標準的治療の範疇に急速に進化したと言えます。それを現在の山下慎一郎先生が委員長としてさらなる発展を目指して奮闘しております。

このような世界基準のECMO管理本の翻訳をわが国の呼吸ECMOのリーダーの一人である市場晋吾先生、清水敬樹先生が決断し、多数の若手の先生方とともに訳出して完成に至ったきわめて本質的かつ、基本的な内容が詰まった至極の一冊が本書であります。ECMO診療に関わるあらゆる職種の皆様に手にとっていただけることを期待しています。

2020年2月

日本呼吸療法医学会 理事長
大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座
麻酔・集中治療医学教室 教授
藤野裕士